

# 生き生き消防団

## 上田市消防団と消防活動

長野県上田市消防団 団長 和田道明

### 1 はじめに

長野県上田市は、日本列島のほぼ真ん中に位置し、東京から約190km、長野新幹線で約1時間半の距離にあります。気候は内陸性気候で寒暖の差が大きく、また雨量は年間900ミリ前後と雨、雪共に少ない地域です。地形は市内中央に千曲川が流れ、河岸段丘を形成し、北には菅平高原、南には美ヶ原高原があり周囲を2,000m級の山々で囲まれております。人口は、約16万4千人、面積552km<sup>2</sup>を有し、自然豊かな工業都市として発展しております。(平成17年10月1日国勢調査)

市内には、真田昌幸が築城した上田城跡公園があり、また、この夏に公開された上田を舞台にした映画「サマーウォーズ」でたくさんの観光客が訪れました。

平成18年3月に、上田市、丸子町、真田町、武石村の1市2町1村が合併し「新上田市」が誕生したことにより、消防団も同年4月に結団式を行い、消防団員数2,490名(定数)の新上田市消防団として発足いたしました。

1本部、8方面隊、32分団、音楽隊、救護隊、ラップ隊、バイク隊、ペナテス隊及び広報部会で構成されており、消防車両は指揮車6台、搬送車1台、ポンプ車19台、普通積載車28台、軽積載

車66台、照明車1台、バイク10台を配備しております。

### 2 組織概要

#### ① 音楽隊について

音楽隊は、昭和48年に発足し、女性団員は昭和50年に採用が始まり5名が入団し、現在、男性32名、女性34名の合計66名で活躍しております。

平成18年3月にNHKの番組「響けみんなの吹奏楽」の番組で、サクソ奏者のマルタ氏と共演し、記念に「FIRE WINGS ORCHESTRA」の愛称をいただきました。演奏会として、年1回の定期演奏会、市内各地で行う出前演奏会は20回、鎌倉シティプラスとの交流演奏会を隔年で開催しております。

昨年は、新潟県佐渡市で、小木中学の皆さんと合同演奏会を開催しました。

消防関係では、昭和50年の東京、後楽園で開催された消防100年祭、静岡県沼津市で第1回の女性消防団員活性化大会、当市で開催しました第4回大会、東京で開催した第6回大会に出演し、音楽を通じて市民に予防消防を呼びかけています。

## ② 救護隊について

救護隊は、救護長、副救護長（本部員）が、分団から選任された救護隊員（220名）の指揮監督をし、救護技術の習得を行い、年間で普通救命講習会に160名、上級救命講習会に100名が受講しました。また、普及員に6名が資格を取得しました。救護隊員は、常時救護バックの携行を義務付けており、本年の防災訓練でも、救急隊、医師のチーム「D-MAT」と協力した訓練も行いました。\*

※ D-MATの正式名称は、disaster medical Assistanceで大地震や航空事故といった大規模災害時に被災地に迅速に駆けつけ、救急治療を行うための専門的な訓練を受けた医療チームのことです。

## ③ ラッパ隊について

長野県はラッパ吹奏が大変盛んで、県大会もポンプ操法と同日に毎年開催されます。今日までの、成績は3位が3回、優勝には至りませんが日夜訓練を行っています。正副ラッパ長（本部員）を中心にラッ

パ手230名が活動し、式典での吹奏をはじめ、災害現場でも信号ラッパの吹奏として、特に山林火災での無線不感時に威力を発揮しています。

## ④ バイク隊について

平成6年10月9日、JR西上田駅（現在の西上田駅）に隣接した、オイルターミナルの油槽6基が炎上。消防車両58台、団員740名が消火活動を行いました。発生から4時間連続という長時間の放水により、小型ポンプのガソリンが尽きて停止。周辺道路は、大渋滞に陥っており、車両でのガソリン配送に支障を来す中、バイクで現場に出動した団員によりガソリンが配送され、二輪車の機動力を改めて感じた出来事でした。これにより、平成8年1月に、全国初となるバイク隊が結成され、現在は正副バイク隊長（本部員）を含む約200名の隊員で活動しています。車両は日本消防協会から6台、上田市から4台を配備していただきました。緊急時の活動は、主に山林



▲救護隊による救護訓練（市総合防災訓練にて）



▲女性消防隊（ペナテス）ポンプ操法訓練

火災での偵察や行方不明者の搜索です。また、春と秋に自動車教習所での走行技術訓練を行い、長距離走行訓練は、静岡県沼津市（災害援助協定）、新潟県佐渡市（南佐渡消防団と友好団）等に出動しています。

#### ⑤ 女性消防隊ペナテス隊について

当市消防団の女性消防隊として、平成10年、市民への公募で、ペナテス（ギリシャ神話の家庭の守り神）と名称を定め、隊員は結成以来、災害現場において本部設置や後方支援、平時は家庭訪問、イベントでの紙芝居で子供たちにアピールしています。

近年、各分団での女性団員の登用が進み、ラッパの選手として大会に参加する女性団員も出てきました。また昨年4月から隊長以外の本部付けであった隊員を分団所属に転籍させることで、今後は女性の入団をさらに促進し、分団で男性と共に分団活動を行い、火災や災害等有事でも男女の区別無く活躍することを期待しています。現在女性団員数は、本部1名、音楽隊34名、分団

45名の80名で構成されています。当面の目標は女性団員120名を目指しています。

#### ⑥ ポンプ操法

毎年6月末に行われる上田大会は、全チームが、県大会を目指し技を競い合います。分団の選考会から勝ち上がってきた選手の技術、士気は大変高く、家族や地元の皆さんの大勢の応援をいただき、熱い戦いを繰り広げます。昨年は県大会において3度目のW優勝を果たしました。51回を数える県大会の優勝回数は、1部2部とも7回です。

また、全国大会では1部優勝1回、準優勝1回。2部では準優勝が4回です。

#### ⑦ 広報部会について

32個分団すべてが、自分たちで工夫を凝らした広報誌を年3回程度定期発行をしています。出初式には、各分団、各隊38枚のポスターが作成され、商店街の施設で展示されます。また、公式ホームページは、講習会を開催し統一した形式で運営しています。これらの活動のレベルアップのため、各分団の広報部長を集め、広報部会として勉強会を開催しています。

#### ⑧ 分団活動について

各分団は、4月に定期総会を開催し決算、予算、活動について決定し、それぞれ独自の分団活動を行っています。特に分団主催の防災イベントは、地域の住民、子供たちに変大好評で1,500人を集める分団イベントもあります。模擬店、ラッパ吹奏、音楽隊演奏、紙芝居、放水体験、乗車体験、煙体験、地震体験車等で住民や子供たちを楽しませて、地域との交流を図っています。訓練や会議等で年間出動回数が300回を超える分団もあります。



▲上田市総合防災訓練

## ⑨出初式について

消防のもっとも華やかな出初式は、毎年1月の第3日曜日に開催しております。そのときには、火消し太鼓、消防木やり、長さ4間半の梯子での梯子のり演技、ラッパ隊ドリル演奏を披露し、2,000人を超える団員や市民参加団体の分列行進、100台の車両の行進は圧巻です。当団としては、将来、日本一の出初式にしようとしております。

## 3 今後の取り組みについて

1585、1600年に、真田昌幸の居城上田城に、徳川家康は兵を送りましたが、2度とも打ち破りました。この時、町民や農民も我が町の防衛に参加したといわれており、火気を取り扱う鍛冶職人が多く住む鍛冶町に火消しの役を命じました。これこそが「自分の町は自分で守る」の原点だと新入団員の研修では、上田の歴史を熱く語って動議付けをしています。

また、5つのスローガンとして

- 1、良識ある市民たれ
- 2、防火防災のエキスパートたれ
- 3、地域のリーダーたれ

## 4、郷土愛を涵養しよう

5、自負と誇りを持つを掲げております。このスローガンの達成に、活動計画を自分たちが決め自分たちが遂行し達成するための行動的組織を構築して、活動を展開しています。

また、上田市消防団歌を皆で歌い、士気高揚を図り合わせて団員の団結を誓います。

次に、将来の展望として、来る少子高齢社会、さらに若者の地域転出が、団員不足を深刻なものとさせています。当市分団でも、すでに6戸の世帯の割合で1名の団員を輩出している地域も出てきました。

10年後の人口予測の中から、分団統合を団員が話し合いで決定し、平成19年には38分団から32分団へ、平成22年には29分団に再編成予定です。これらは行政の協力をいただきながら、団員が消防団の経営者となって提案してきました。私は消防団長として、大変嬉しくまた心強いものであります。自分たちの進む道を、団員が真剣に考えていくことがますます重要となるでしょう。分団長で構成する総務部会、副分団長で構成するネットワーク会議で、21世紀を耐えうる消防団の形を模索しながら、わが郷土上田市を心から愛せる団員を育てていこうと考えております。

